



HAPEE ハッピーメール MAIL

発行：ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター
〒730-0052 広島市中区千田町 3-7-47 TEL082-246-1400

Facebook



ハッピーメール
バックナンバー



【Mail Magazine 知っ得情報】

メルマガでは国、県、市町、産業支援機関等及び産振構の公募イベント助成金情報などのご案内をいち早く皆様にお届け致します(右記のQRコードで閲覧できます。)

※ 毎週木曜日配信



(公財)ひろしま産業振興機構発行

「コロナ禍での中国納品奮闘記」

【賛助会員】ラボテック株式会社
代表取締役社長 吉川 恵 氏



弊社は工場排水、排ガス、土壌及びアスベストなどの分析の依頼を受け、濃度結果を証明する環境分析業と、それらを自動分析する装置の開発製造販売を行っています。中でもBOD(※)分析装置は、国内で普及してきたのを機

に中国へも販売促進を考え、2018年9月大連に子会社を設立しました。

中国は日本と流儀が異なり、多くの点で難事がありました。さらにコロナ感染症で動きも取れず、3年が過ぎました。

昨年12月に弊社の中国人社員がBOD装置の納品で中国に入った際の奮闘記を少し紹介します。

私は甘粛省張掖市に派遣され、BOD装置の納品及び立ち上げ業務を行った李子豪です。当時、中国国内の防疫政策は全面開放の兆しがありましたが、人口の多い大都市に比べて、張掖のような小



【李子豪さん】

さな地方の防疫政策は依然として保守的でした。空港の閉鎖さえすれば小都市の人口流動を止めることが容易に可能となるからです。

このため、私が成都から張掖へ行くための飛行機は何度予約してもキャンセルされました。納期のことを考えると、もう張掖の空港封鎖解除を待つことはできないと判断し、私は列車を選択。列車は新幹線のような快速列車はなく、速度の遅いブリキの寝台列車で、19時間の長い旅を経てようやく張掖に到着しました。ちょうどこのタイミングで中国国内は全面的にコロナから解放されていました。分析センターに入るために健康QRコードを提出する必要はなく、PCR検査のみでしたが、現場に入った時、納品先の担当者は外来者に慎重でした。

BOD測定は中国の現場の方々にとって馴染みがないわけではありませんが、サンプル量は多くないのが現状です。近年、水の質を判断する重要な指標としてBODが環境保護規格に登録され、サンプル量も増えてきました。年々増加するサンプル数、さらに整った検査基準、新型コロナウイルス終息後の中国政府はこれから環境保護事業に重点を置くようになると推察しています。

(※) 水中に含まれる有機物が微生物によって分解される時に消費される酸素量

■ CONTENTS ■

巻頭言	「コロナ禍での中国納品奮闘記」	ラボテック株式会社 代表取締役社長 吉川 恵 氏	1
海外 レポート	ジャカルタ	新しいビジネスチャンスを失う日本	2
	ニューヨーク	世界最大のイノベーションの展示会 CES	3
	台北	経済効果抜群の台湾ランタンフェスティバル	4
	ハノイ	2023年猫年の明るい兆し	5
	上海	日本の回転寿司が次々に中国進出	6
	ホーチミン	フルーツ王国、ベトナム	7
お知らせ	ハッピーからのお知らせ		8

「新しいビジネスチャンスを失う日本」

中川 智明

前回 2023 年 1 月号で紹介した GoTo（2022.4.11 インドネシア証券取引所に上場）のような新しいビジネスが誕生し成長するインドネシアと、新しいビジネスが誕生しにくいと言われている日本を比較してみたいと思います。日本から離れ、他国と比較することでその違いを強く感じます。

＜GoTo の強力なライバルである Grab＞

前回、GoTo が巨大企業になっている話をしましたが、彼らに競合がいなかったわけではなく、Grab というシンガポールから来た強力なライバルがいます。おそらく GoTo 独占状態であれば、Go To もここまで大きくならなかったのではないかと思います。競合する Grab と競い合うことで、サービス・規模ともに拡大してきたと言えます。GoTo は、海外から進出してきた同業他社と競争する中で、自国が誇る企業に成長したのです。

＜規制で競合企業の日本進出を阻止する既得権益者＞

GoTo や Grab が企業規模を拡大し競争する中で、タクシー会社は厳しい競争に巻き込まれ、収益や規模の縮小を強いられたと思います。実際に、インドネシアの優良タクシーの代名詞だった「ブルーバード」の数は減少し、インドネシアに慣れた日本人なら乗っていた「エクスプレス」はほとんど目にしなくなりました。これは競争する社会において、止むを得ない状況だと思います。

一方、日本では、Grab 等が日本市場に参入しようとした時に、法令や許認可等でその進出を阻み、インドネシアやタイ等で非常に頻繁に見るライドシェア事業の活動をさせませんでした。そして日本のタクシー会社は独自の配車アプリを作りました。

日本でも結果的には配車アプリが使えますので、一見これで問題ないようにも思えますが、大きな違いが生じてきます。

＜激しく競争する中で生まれるスーパーアプリ＞

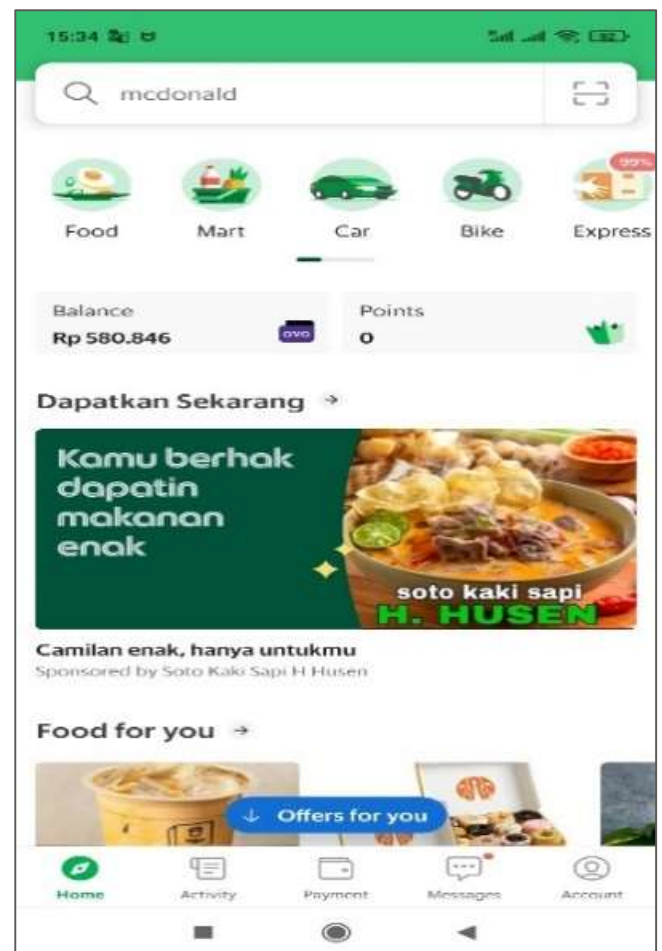
インドネシアで激しく競争する GoTo や Grab は、その競争の中で更にサービスを拡大し、配車サービスやフードデリバリーの枠を飛び出し、電子マネーや各種サービスの提供までも行いはじめました。激しい競

争の中で、日本のタクシー会社の作ったアプリのような単なる配車アプリから、配車はもちろん様々なサービスも取り扱うスーパーアプリと呼ばれるまでに進化しました。

＜新しいビジネスや競争を阻み、取り残される日本＞

インドネシアや東南アジアではこのように携帯電話のアプリ上に様々なサービスやビジネスが生まれていますが、このような競争や進化は日本には起こらず、東南アジアの変化やビジネス競争から完全に取り残されました。確かにタクシー業界はこれまでの収益環境を守れたかもしれませんが、その何倍にも拡大するビジネスのチャンスを失いました。

今や世界の経済を牽引すると言われる東南アジアのビジネスの流れから完全に取り残され、古い体質や環境を守り続ける日本の将来を危惧せずにはいられません。



【様々なサービス等を提供する Grab のアプリ】

「世界最大のイノベーションの展示会 CES」

蟬本 睦

＜年明け早々のロケットスタート＞

米国は新年早々展示会が目白押しです。テクノロジーとイノベーションの見本市、CES が 1 月 5 日に開幕し、8 日までの 4 日間、ラスベガスにて開催されました。

CES はその名 (Consumer Electronics Show) のとおり、元々は家電の展示会でしたが、現在では、世界を代表するテクノロジーとイノベーションの展示会となっており、多くの国からの出展と来場があるグローバルなイベントとなっています。なお、1 月 3 日、4 日はプレスデーとなっており、報道陣やプレスに開放されていますので、実質的にはすでに三が日には展示会がオープンしています。

＜2つの会場に跨る4つのショー＞

CES はラスベガス・コンベンションセンター (LVCC) とベネチアン・コンベンション&エキスポセンター (Venetian Expo) という2つの巨大な展示会場をフルに活用し開催されました。LVCC では 2021 年に増設された西ホールだけで、13 万平方メートルと東京ビッグサイト (約 11 万平方メートル) よりも大きいことから、いかに巨大であったかということが分かると思います。

LVCC においては、南館・北館にて、LG やサムスン、ソニー、キャノン、ニコンといった家電やカメラ、さらには、ゲーム、VR などの会社が出展していました。そして、西館ではモビリティをテーマに、自動車や船舶、航空機関連の技術が展示されていました。



【中国家電ブランド Hisense のブース】

Venetian Expo では、1 階には Eureka Park という主にスタートアップの企業群が集められているエリアとなっており、ここは主要国が多くのパビリオンを設置、日本もジェトロが組織した 36 社のスタートアップ企業が出展していました。そして同 Venetian の 2 階は、ライフスタイルに関する様々な技術、テクノロジーに関連する企業が参加していました。それぞれが 1 つの展示会として成り立ち、4 つの展示会が同時期に開催されていたと言ってもいいほどの大きさと人の入りでした。

＜ラスベガス空港での長蛇の列＞

筆者は CES 最終日、1 月 8 日 (日) にシリコンバレーに移動すべく、夕刻空港に向かいましたが、セキュリティチェックのラインに長蛇の列ができており、なんと空港ロビーを飛び出して外まで繋がっているほどでした。結局 2 時間強並ぶこととなりました。CES のバッジをつけたまま並んでいる方も多くいて、いかに多くの来場者が CES を訪れていたかが分かります。



【先が見えないくらい、ラスベガス空港における長蛇の列】

＜2024 年は 1 月 9 日開幕＞

2024 年は 1 月 9 日～12 日の 4 日間の開催となっています。ホテルや航空機も予約しにくくなりますので、もし来年の CES を訪問される場合は (是非お勧めしますが)、年末年始からすぐということもあり、早めに予約されることをお勧めします。

「経済効果抜群の台湾ランタンフェスティバル」

歐 元 韻

今年は広島台北間の直行便も再開され、いよいよ広島を含めた日本各地と台湾との交流が活気づく気配を見せ始めています。そのことを象徴する台湾の伝統イベント「2023台湾ランタンフェスティバル」が今年も実施され、2月5日から19日までの期間、台北市の国父記念館をメイン会場として開催されました。

第34回目となる今年のランタンフェスティバルは、まだ全面的な解放には至っておりませんが、コロナ鎮静化の兆し後では実質、始めて諸外国に門戸を開いた大型イベントとなり、各業界からの関心度も高く、大いに盛り上がりました。国際的には色々心配なニュースも多い2023年のスタートでしたが、今回のランタンフェスティバルに参加して改めて、そのテーマである「光源台北」という言葉を実感しました。意味を要約すると、「人類が目指すべく未来に繋がる道筋を、台北から希望の光をもって照らし、光輝かせることで多くの人々に希望の未来を目指して欲しい」との熱いメッセージが込められています。様々な工夫を施したランタンが夜の街を彩り、日本を含めた諸外国の舞踏団がストリートやステージで精一杯踊り、多くの人達が国を越え、同じ空間を共有しながら笑顔でその時を楽しんでいる様子は、まさに未来の希望の世界を思わせてくれるほど伝統的かつ平和色に溢れたお祭りです。来年は是非、広島からもより沢山の方々にお越しいただきたい、お勧めのイベントです。



【会場写真】

＜ドル箱スターとしてのランタンフェスティバル＞

ここではランタンフェスティバルがもたらす経済効果について少し触れておきます。ランタンフェスティバルを観賞する為に多数の人達が動くことで、交通、宿泊、外食等、様々な分野で需要が増加し、経済の活性化につながります。こうした状況から台湾の業界関係者の間では、ランタンフェスティバルのことをドル箱スターに倣い、別名「スーパー自動チケット販売機」と称しています。これはランタンフェスティバルには、台湾の人達が黙っていても次々とお金を投じる、いわゆる自動券売機にお金を投じて次々とチケットが販売されていく様子に似ていることから、関係者の間で

広まった冗談だとマスコミでも取り上げられるほど、その経済効果は絶大です。

ここ数年のランタンフェスティバルでは、開催期間中の観賞者数は毎年ほぼ1千数百万人以上を記録し、関係者が算出する経済的産出価値は、160億台湾元（日本円約708億円）から200億台湾元（日本円約886億円）規模の効果をもたらすとの見方です。参考として、以下に台湾の報道機関が発表した、ここ数年間におけるランタンフェスティバル経済効果関連数値を簡単にまとめてみました。

年	開催地	観賞者数	経済産出価値高
2020	台中市	1,182万人	118億台湾元
2021(※)	新竹市	中止	中止
2022	高雄市	1,200万人	160億台湾元
2023 (目標値)	台北市	1,000万人	210億台湾元

【ランタンフェスティバル開催状況】

※1 台湾元＝4.43円

※2021年はコロナ禍により中止

＜外交大使としてのランタンフェスティバル＞

台湾のランタンフェスティバルには毎年、各国からの特色あるランタン作品が会場内に展示され、ご当地観光PRに努めております。特に日本からは毎年、多数の地方自治体作品が一堂に会し展示されます。今年も北海道（札幌市、函館市）、青森県（弘前市）、秋田県（湯沢市）、宮城県、福島県、岐阜県（郡上市）、茨城県（笠間市）、愛知県（名古屋市）、島根県、愛媛県（松山市）、香川県、高知県、佐賀県及び近鉄、東武鉄道といった交通機関からの出品作が会場に彩りを添えております。また新北市では、東京観光財団によるランタン作品の展示、高雄市では熊本県代表団が高雄ランタン会場にて市政府関係者と今後の相互交流促進を確認しあいました。

＜広島ランタンご当地PRに期待＞

今年はコロナが落ち着いたこともあり、ランタンフェスティバルのこの時期、日本から多数の地方自治体関係者が台湾を訪れました。なかでも茨城県は、ランタン会場近くで物産展も大々的に開催し、茨城県産冷凍野菜を大手百貨店に設置した自動販売機で販売するなど、その新しい試みで世間の話題をさらっています。私個人としては、来年は先ずカープ坊やのランタン作品が登場し、広島のお好み焼きが自動販売機で販売されることに密かに期待しています。

「2023 年猫年の明るい兆し」

中川 良一

＜2023 年ベトナムの干支は、猫＞

2023 年の干支は兎ですが、ベトナムでは「猫」になります。どうして干支に違いがあるのでしょうか。中国語での干支の「卯」は（mao）と発音され、ベトナム語での「猫」の発音（meo）と似ているので猫だという説。また、猫は農家にとって害獣とみなされるネズミの天敵なので、ベトナム人は兎より、役に立つ猫を選択したという説もあります。ほかにもベトナムの干支は日本と少々異なり、羊は山羊、丑は水牛、猪は豚で、より生活に密着した親しみのある動物に置き換わっています。

近年の若者は、年末（旧暦）に全国の大都市に建てられるその年の干支のオブジェを楽しみにしています。2～5mもある大きなものや、色々な材料からできたオブジェが飾られています。見た目の可愛さは関係なく、どれほど印象的なものを作ることができるかが重要です。低コストでかつユニークなものを作ることで、その都市のイメージアップにつながるチャンスとなっています。

＜海外直接投資＞

新型コロナウイルスが流行して 2 年が経った昨年 2022 年、ベトナムの経済は徐々に回復、各業界も復興し、成長率が増加してきました。総合統計局による 2022 年末の報告によると、ベトナムの 2022 年 GDP の前年比増加率は 8.02%で、2011 年以降で最大の前年比増加率となりました。そのうち、サービス業の増加率が約 10%と最も高く、2022 年増加率の 56.65%を占めました。更に、従来の記録を更新した 2022 年総輸出入額は 2021 年比 9.5%増 7,325 億ドルで、貿易黒字は 112 億ドルに達しました。

ベトナムへの海外直接投資も少しずつ回復しており、コロナ前の 2019 年の状況に近づいています。新規登録投資プロジェクトは 2,036 件、新規登録投資額は 125 億米ドルとなりました。投資件数ベースでは、2021 年の 1,738 件を上回り、韓国が第 1 位（416 件）、中国 2 位（283 件）、シンガポール 3 位（280 件）、次いで日本 4 位（203 件）でした。新規登録投資額は日本が 33.9 億米ドルで第 1 位となりました。投資分野別では、加工・製造業での新規登録投資額が 72 億米ドルを超えてトップで、全体の 58%を占めました。

＜回復が顕著な観光産業＞

観光分野においても回復が顕著です。2022 年前半に海外旅行は政府により許可されましたが、各国の出入国手続の複雑さや安全状況などを鑑みて、国内旅行が人気でした。2022 年の国内旅行者数は予想より 168.3%多く、過去最大 1 億 130 万人に達しました。旅行業界の売上は 495 兆ドン（約 2.69 兆円）で、予想を 23%超える状況です。

ベトナム観光局によると、コロナ前の 2019 年の海外からの観光客数は、全体の 3 分の 1 を占める中国人が第 1 位（580 万人）、次いで韓国人 2 位（429 万人）、日本人 3 位（95 万）という状況でしたが、本年は、コロナ前よりも多くの観光客がベトナムを訪れるだろうと予測されています。2023 年猫年は、猫の俊敏な動きのように、観光・投資が急回復し、経済に明るい兆しが見えることが期待されています。



【様々な猫のオブジェ】

「日本の回転寿司が次々に中国進出」

洲澤 輝

近年、日本の回転寿司が次々に中国市場に進出しています。「株式会社 food & life companies」が運営するスシロー（中国語：寿司郎）は、これまで広州市や深セン市などに店舗をオープンしており、2022 年 11 月には四川省成都市に西南地区初の店舗をオープンしました。そして、今年春には中国 4 番目の都市として重慶市への進出を予定しています。スシローでは、中国で人気のあるマグロやサーモン、カンパチ、ウニなどの魚介類に加え、珍しい食材を含む 140 種類以上のお寿司と料理を揃えています。寿司は 1 皿 10 元～28 元（約 190 円～540 円＝1 元 19 円）で提供しており、日本より少し高い感覚です。スシロー成都店はオープンイベントの際に「スシロー成都」の WeChat 公式アカウントのフォロワーにオープン記念としてプレゼントを贈っています。プレゼントは寿司やパンダのキャラクターがデザインされたオリジナルのエコバッグやクリアファイルなど、どれも可愛くて若い女性が好みそうな商品です。



【画像参照：百度】

＜くら寿司も中国に進出＞

同じく、日本で回転寿司を運営する「くら寿司(株)」も中国にオープンします。早くも今年の夏までに上海市に 1 号店をオープンし、今後は沿岸部の都市を中心に出店を加速、10 年間で 100 店舗の出店を目指しています。くら寿司は既に米国と台湾に進出していますが、中国大陆への出店は今回が初となります。

＜上海市の日系回転寿司＞

上海市には既に幾つかの日系回転寿司が進出しています。「株式会社はま寿司」が運営するはま寿司（中国語：濱寿司）は現在上海市に 12 店舗あり、蘇州市や天津市、広州市、成都市、重慶市などにも進出しています。また、「株式会社アールディーシー」が運営するがってん寿司（中国語：合点寿司）も上海市に 7 店舗、蘇州に 2 店舗あります。

＜日本の回転寿司に人気がある理由＞

なぜここまで日本の回転寿司が人気なのか調べてみると、まず、魚が新鮮なことが挙げられます。店内で提供されている魚はどれも新鮮で安心して食べる事ができ、日本から輸入している魚もあり、値段は少々高くなりますが、味は格別です。さらに、店員の接客サービスが良い点も人気の理由の 1 つに挙げられています。中国国内の経済発展に伴い現地消費者の収入が上昇することで、多くの市民が、より良いサービスを求めるようになっていきます。丁寧な接客を提供する日本式サービスは現地でも人気があります。

＜がってん寿司での食事体験＞

私は以前、上海市のがってん寿司（金虹橋国際中心店）に足を運んだことがあります。週末の夕方に行きましたが、店内は沢山のお客で賑わっており順番待ちが必要でした。店内を見渡してみると、お客のほとんどは中国人で日本人は見かけませんでした。客層は子ども連れの家族や友人と一緒に多く、一人で来店している人もいました。日本と比べて値段が少し高く設定されていても大盛況です。今後、日本の回転寿司が中国でどこまで展開していくのか、引き続き注目していきたいと思います。



【がってん寿司の様子：金虹橋国際中心店】

参照：[日本の人気回転寿司の「スシロー」が成都に進出（界面新聞）【中国語記事】](#)

「フルーツ王国、ベトナム」

石川 幸

ベトナムの経済的な首都と言われるのは、特別市であるホーチミンで、その人口は国内最大となる約900万人です。周辺を含めると約2千万人が住む大都市圏となっています。2023年にはベトナムの総人口が1億人に達する予測で、ホーチミン周辺だけで、ベトナムの約20%を占めています。東京都の人口が約1,400万人ですから、世界的にも巨大な市場であり、ホーチミンへの注目度も年々アップしています。

そんなホーチミンですが、初めて訪れた日本人の多くは、市内を走るバイクの多さと人の多さに驚かされます。道路を埋め尽くすバイクと人たち。賑やかなクラクション。活気に満ちた都市ですが、訪問回数を重ねるうちに、そのバイクの多さにも慣れてきます。

<年間通じフルーツ多彩>

ベトナムを代表する飲み物としてはコーヒーがよく知られていますが、食べ物で有名なのは多彩な「フルーツ」です。特にホーチミンがある南部では、年間を通じて多くのフルーツを味わうことができます。南部は、いわゆる南国で、一年を通して熱帯モンスーン気候で、日本と異なり、冬がありません。季節は雨季と乾季という2つの区分となります。そのため、一年を通してさまざまなフルーツを堪能できます

南国特有の代表的なフルーツとしては、ライチ、マンゴー、バナナ、ザボン、ランブータン、パッションフルーツ、グアバ、ドラゴンフルーツ、ドリアン、ジャックフルーツ、スターフルーツ、パパイヤ…。数え上げれば切りがありません。輸出が限定されたフルーツものも多いので、日本であまり知られていないものも多いでしょう。

これだけ豊富なフルーツですが、2022年の燃料価格上昇などインフレの影響から、スーパーでの小売価格は年率で5%前後の価格上昇が見られます。ただ、伝統的な市場内の露店では2021年と同じ価格で買えたりもすることがベトナム的な感じもします。多くのベトナム人は、日常的にフルーツを購入するとき、少しでも安いところで買い物をするという比較購買の傾向があります。そんなところも伝統的な市場では垣間見ることができます。



【価格が上昇しているスーパーの果物売り場】

こちらの記事は、昨年12月末に執筆し、中国新聞 SELECT「最前線ビジネスサポーター発」にも一部、掲載されました。



【ザボン】



【ドラゴンフルーツ】



【パッションフルーツ】

ハッピーからのお知らせ

配信中

中国ビジネスセミナー

中国ビジネスセミナー

2023年ウィズコロナ政策転換と 中国ビジネス最前線

Global Challenge Hiroshima

～ついに始動した中国市場、企業、産業とそれに対応する日本企業の今後を見通す！～

配信期間 / **2月21日(火)～3月20日(月)**
開催方法 / オンデマンド配信

講師 ひろしま産業振興機構 広島上海事務所 総括コーディネーター
桜葉コンサルティング株式会社 代表取締役社長
遠藤 誠氏

参加費
無料

ゼロコロナからウィズコロナへの大胆な政策転換で、中国が世界を揺さぶっています。ビジネスの現場からの視点で中国情勢を読み解き、中国市場や各種産業（EV、自動運転、半導体、配膳ロボット、小売りや飲食）でイノベーションが進む実態に迫り、日本企業のビジネスチャンスを探ります。

【申込方法】QRコードもしくはひろしま産業振興機構ホームページからお申込みください。

<https://www.hiwave.or.jp/event/31489/>



配信開始

オンライン視察

オンライン視察 シンガポールにおける 製造業DXの取組

Global Challenge Hiroshima

参加費
無料

「世界デジタル競争ランキング2022」でアジアトップ・世界第4位のシンガポールにおいて、中小企業がどのようにDXを導入しているのか、現場の映像も交えながら紹介していただきます。

令和5年
配信期間 **3/1 水～3/31 金**

Onn Wah Tech Pte Ltd
最高戦略責任者
モック ホン ヨン 氏

【申込方法】QRコードもしくはひろしま産業振興機構ホームページからお申込みください。

<https://www.hiwave.or.jp/event/36726/>

